

学生ビザで強硬策 トランプ氏母校ペンシルベニア大留学生は…

松本出身村木さん「剥奪のニュース見るたび恐怖」

「勉強に専念したいが、不安で集中できない」。松本市里山辺出身で、米国のペンシルベニア大に留学中の村木裕太さん（19）は、留学生活についてそう打ち明けた。ハーバード大への新規留学生の入国を一時的に停止しようとするなど、トランプ政権は大学や留学生への圧力を強めている。「ビザ剥奪のニュースを見るたびに恐怖に駆られる」と話した。

村木さんは、松本秀峰中等教育学校（松本市）を経て東京大に入学。外交官を志望し、昨年9月から米東部の名門ペンシルベニア大で国際関係学などを学んでいる。現在は夏休みで松本市に帰省中で、信濃毎日

新聞の取材に応じた。

トランプ氏が昨年11月に大統領選で勝利すると、リベラルな考えを持つ学生が多い学内には「諦めムードが広がった」という。政権は今年3月、同大水泳チームのトランスジェンダー選手が女子競技大会に参加したのを問題視し、同大への約1億7500万ドル（約261億円）の連邦資金の支給を停止した。村木さんの周辺でも、夏に予定されていた研究が中止になったケースがある。政府機関での就業体験が取り消しになった友人もいる。

5月下旬、政権は留学などに必要な学生ビザ取得のための面接の新規予約を一時停

止した。ビザ申請者がSNS（交流サイト）に「反ユダヤ主義」とみられる投稿をしていないか審査するためとされる。「再入国できなくなるかもしれない」と考え、夏休みだが米国にとどまる友人もいる。村木さんもSNSへの発信に神経をとがらせている。

村木さんはトランプ氏について「日本の政治にはない迅速さがある」と感じる一方、留学生への圧力を強める姿勢には懐疑的だ。ペンシルベニア大は同氏の母校。村木さんは「留学生が持つ多様な価値観を取り入れ、国外から優秀な頭脳を受け入れることが米国の国益にかなうのではないか」と、「先輩」に苦言を呈した。



米国での留学について不安を語る村木裕太さん

ペンシルベニア大の校舎（村木さん提供）